

調査対象物質	分析法フローチャート	備考
<p>[3]4'-エトキシアセトアニリド(別名:フェナセチン)</p>	<p>【大気】</p> <pre> graph TD A[大気] --> B[捕集 Empore Disk C18 10L/分×24時間] B --> C[溶出^{注1} アセトン 10mL] C --> D[濃縮^{注1} 窒素ページ 100µLまで] D --> E[転溶^{注1} アセトニトリル 1mL^{注3}] F[内標準添加 フェナントレン-d₁₀^{注1}] --> E E --> G[GC/MS-SIM^{注1}] </pre> <p><注>次に示す方法を採用した例もあった。</p> <p>1:溶出を超音波洗浄機により行い(アセトン10mL、10分間)、2500rpmで10分間遠心分離を行い、1mLを分取した。内標準物質の添加量を50ngとした。また、測定機器としてGCMS-QP2010、カラムはDB-WAX、長さ30mを使用し、GC/MS-SIM-EIで測定した。</p> <p>2:測定機器としてCP-3800/1200Lを使用した。</p> <p>3:測定機器としてThermoQuest (TRACE GC2000/POLARISQ)を使用し、最終液量を0.5mLに変更した。</p> <p>「平成18年度化学物質分析法開発調査報告書」 準拠</p>	<p><分析原理> GC/MS-SIM^{注1}</p> <p><検出下限値> 【大気】 (ng/m³) [3] 3.1</p> <p><分析条件> 機器^{注2 注3} GCMS-QP5050A^{注1} カラム Inert Cap WAX^{注1} 15m×0.25mm、0.25µm^{注1}</p>